

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和元年12月16日
タイトル	令和元年度疏水研修会へ参加しました！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和元年11月26日、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて「令和元年度疏水研修会」が開催され参加しました。

疏水は、農業用水だけでなく生活用水などに利用し地域住民の憩いの場や動植物の生育空間となるなど多目的機能を発揮しており、農業者のみならず国民共有の貴重な財産であることから広く国民に周知し疏水を将来に引き継いでいくことができるよう情報交換、情報発信等を行うことを目的に開催されています。



講演1「疏水を次世代に引き継ぐための課題と施策」では、疏水を巡る諸情勢の変化として日本や世界の降雨状況や気温の変化、世界の自然災害の発生状況について講演され、世界では過去50年間で約280万人が水害で亡くなっており対策が急務であると思いました。

講演2「疏水・農業用水の発電、熱利用技術」では、農業用水を利用した小水力発電や熱利用技術について講演され、水の循環と水利システムに土地改良区や人が関わることで安全な水管理が行われていることや既存の農業水利施設を利用し発電施設を設置できることや農業用水の熱を利用する技術は、効率よくエネルギーを得ることなど、疏水の重要性を改めて感じました。

講演3「両総用水の紹介と技術的特色」、講演4「両総用水の維持管理と課題」、講演5「両総用水と房総導水路の関わり」は、千葉県房総半島にある利根川から取水する用水「両総用水」についての講演です。疏水研修会開催前には、台風15号、19号関連の暴風雨により千葉県内も甚大な被害に遭われたにも関わらず講演をしてくださいました。

両総用水は、利根川を水源とし香取市外6市6町1村にわたる受益地約17,500haの農地へ揚水機3機により送水をしています。

大規模な揚水機の維持管理に想像を超える電気代が必要となることや地元水利組合が「番水」「地下水止め」「反復水利用」といったきめ細やかな配水調整をしておられるとお聞きし感心しました。

両総用水が完成する昭和48年まで戦前から30年以上、壮大な事業は人類の偉業と言えます。3年に一度浸水被害にあう地域と2年に一度干ばつに悩まされていた地域は災害が減り、農作物の生産が盛んな地域となり、現在では千葉県は北海道に次いで農作物の生産量が全国2位になることができたそうです。

疏水によって農業生産はもとより人々の暮らしや経済にも恩恵をもたらすことを実感しました。

水土里ネット福山においても、21世紀土地改良区創造運動の取り組みを発展させていき、多くの人に疏水の豊かさ、重要性を発信していくことが大切だと思いました。